



営農タイムリー！



発生予察情報について(4月)

2022年4月11日発行

病害虫発生予報第2号(4月)

京都府病害虫防除所より、4月の予察情報が発表されました。

病害虫発生予察第2号(4月) (抜粋)

作物名	病害虫名	予想発生量 〈平年比(前年比)〉
カキ	カキクダアザミウマ	<u>やや多</u>
キャベツ	菌核病	<u>やや多</u> (やや多)
アブラナ科野菜	コナガ アブラムシ類	<u>多</u> (やや多) 並 (多)

果 樹

1. カ キ カキクダアザミウマ

予報内容 発生量 : 平年比やや多い

発生生態及び防除上注意すべき事項

- (1) 主に年1回発生。カキや付近のマツ、スギ、ヒノキ、クヌギなどの樹皮の粗皮の隙間で、成虫で越冬する。
- (2) 4月下旬頃に越冬場所から新芽に移って、展開後2~3日以内の新葉に寄生する。
- (3) 4月中下旬頃から新葉をよく観察し、新葉が出始めた日から1週間以内に防除を行う。

カキクダアザミウマ

形 態 : 成虫は体長2.2mm前後、黒色。卵は円筒形、乳白色。幼虫は成長すると体長1.8mm前後、黒色、他のアザミウマに比べやや大型である。

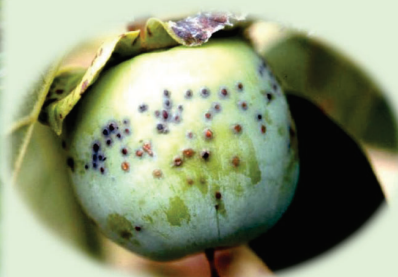
防除の

ポイント :

- カキクダアザミウマでは産卵開始期間(4月下旬~5月上旬)が重要な防除時期である。



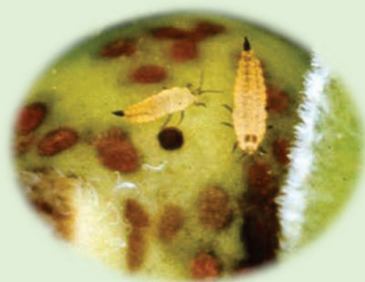
葉被害



果実被害



卵



果実被害、幼虫



1 齡幼虫



2 齡蛹



成虫

かき アザミウマ類・カキクダアザミウマ 登録薬剤

IRAC コード	薬剤名	適用害虫	希釈倍数 / 使用薬量	使用時期 / 使用方法	本剤の 使用回数
1A	オリオン水和剤40	アザミウマ類 イラガ類:カイガラムシ類:カキノヘタムシガ:ケムシ類:ハ スモンヨトウ:ハマキムシ類 他	1000倍	収穫21日前まで	1回
1B	 ゼイエース 水溶剤	カキクダアザミウマ カキノヘタムシガ:チャノキイロアザミウマ	1500倍	収穫45日前まで	2回以内
	 オルトラン 水和剤	カキクダアザミウマ カキノヘタムシガ:チャノキイロアザミウマ:フジコナカイガラ ムシ	1500倍	収穫45日前まで	2回以内
	 スプラサイド 水和剤	カキクダアザミウマ カイガラムシ類:カキノヒメヨコバイ:カメムシ類 チャノキイロアザミウマ	1500倍 1000倍	収穫30日前まで	3回以内
2B	キラップ フロアブル	アザミウマ類 :カメムシ類	2000倍	収穫7日前まで	2回以内
3A	MR.ジョーカー 水和剤	カキクダアザミウマ カキノヘタムシガ:カメムシ類:チャノキイロアザミウマ	2000倍	収穫14日前まで	2回以内
	アークリン 水和剤	カキクダアザミウマ カメムシ類:チャノキイロアザミウマ:ハマキムシ類 カキノヘタムシガ:チャミノガ	1000倍 1000~2000倍	収穫30日前まで	3回以内
	 アグロスリン 水和剤	アザミウマ類 :カキノヘタムシガ:カメムシ類	1000~2000倍	収穫前日まで	3回以内
	 スカウト フロアブル	アザミウマ類 カキノヘタムシガ カメムシ類	2000倍 1500~2000倍 1500倍	収穫7日前まで	5回以内
4A	 アクタラ 顆粒水溶剤	アザミウマ類 カキノヘタムシガ:カメムシ類:コナカイガラムシ類	2000倍	収穫3日前まで	3回以内
	 スタークル 顆粒水溶剤	アザミウマ類 カキノヘタムシガ:カメムシ類:コナカイガラムシ類	2000倍	収穫前日まで	3回以内
		コナカイガラムシ類	20~40g/樹 発芽前~発芽期 / 本剤1gあたり水1mlの割合で混合 し、主幹から主枝の粗皮を環状に剥い だ部分に塗布する。		1回
	 モスピラン 顆粒水溶剤	アザミウマ類 カイガラムシ類:カキノヒメヨコバイ:カキノヘタムシガ:カメム シ類	2000~4000倍	収穫前日まで	3回以内
5	ディアナ WDG	アザミウマ類 カキノヘタムシガ:ハマキムシ類	5000~10000 倍	収穫前日まで	2回以内
13	 コテツ フロアブル	アザミウマ類 イラガ類:カキサビダニ:カキノヘタムシガ	2000~4000倍	収穫14日前まで	2回以内
		カンザワハダニ:ナミハダニ	2000倍		
23	モベント フロアブル	アザミウマ類 カイガラムシ類	2000倍	収穫7日前まで	3回以内
28	 テッパン	アザミウマ類 カメムシ類:ハマキムシ類:ヒメコスカシバ:イラガ類:カキノ ヘタムシガ	2000倍	収穫前日まで	2回以内
28 4A	キックオフ 顆粒水和剤 [フレバソソ+スタークル]	アザミウマ類 ケムシ類:カキノヘタムシガ:カメムシ類:コナカイガラムシ 類	2000倍	収穫前日まで	3回以内

野菜

1. キャベツ 菌核病

予報内容 発生量 : 平年比 やや多い (前年比 やや多い)

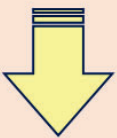
発生生態及び防除上注意すべき事項

- (1) 春に発生が多く、適温は20℃前後、曇天雨が続く時に発生しやすい。
- (2) 発生終期に形成された菌核は土中に落ち、次作以降の伝染源となる。菌核は土壌中で2～3年間生存可能である。
- (3) 発病株は菌核を形成する前に抜き取り、土中に深く埋めるなど処分する。



■ 菌核病の防除体系 例

発病前は



発病が認められたら

M07(M)

ベルコート 水和剤 [1000倍 収穫14日前まで/3回以内]

ベルコート フロアブル [1000倍 収穫28日前まで/3回以内]

予防剤を ローテーション散布

12(E2)

セイビアー

フロアブル20

[1000倍 収穫3日前まで/3回以内]

11(C3)
7(C2)

シグナム WDG

【カンタス+カルビオ】

[1500倍 収穫7日前まで/2回以内]

11(C3)

ファンタジスタ

顆粒水和剤

[2000~3000倍
収穫3日前まで/3回以内]

アミスター²⁰

フロアブル

[2000倍 収穫7日前まで/4回以内]

治療剤を加えた ローテーション散布

2(E3)

ロブラール 水和剤

[1000倍 収穫前日まで/7回以内]

7(C2)

パレード20

フロアブル

[2000~4000倍
収穫前日まで/3回以内]

アフエット

フロアブル

[2000倍
収穫前日まで/3回以内]

野菜

2. アブラナ科野菜 コナガ

予報内容 発生量 : 平年比 多い (前年比 やや多い)

発生生態及び防除上注意すべき事項

- (1) 高温、乾燥が続くと発生が多くなりやすく、雨が多いと発生が抑制される傾向がある。
- (2) 防虫ネット等を利用し、物理的防除に努める。

形態 : 成虫は体長6mm内外、翅の開張12~16mmで褐色、雄は白色の鋸歯状の斑紋がある。卵は楕円形で0.5mm、淡黄色である。幼虫は鮮緑色で成長すると体長10mm内外、手を触れると糸を吐いて地上におりる。和名のコナガは「小菜蛾」に由来する。

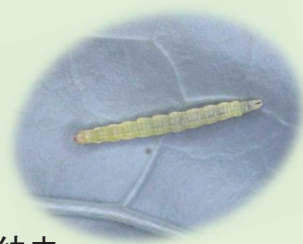
生態と被害 : 成長が早く、年間発生回数が多い。寒地では年5回の発生であるが、暖地では13回に及ぶ。越冬は一般に蛹で行われるが、西南暖地では各ステージのものが見られ、冬期も成長を続ける。5~6月と秋に多いが、冷涼地では夏にも多発する。幼虫は葉の表皮を残し、葉緑層を食害するので生育が遅れ、多発すると畑全体が白く見える。また、幼苗などは芯葉を食害され、いわゆる芯止まりとなってキャベツなどは結球できなくなる。

防除の

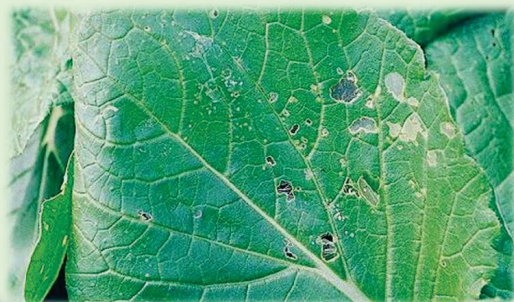
- ポイント** : ● 薬剤抵抗性の事例が多いので、各種薬剤をローテーションで用いる。
● 春、秋に発生が多いので、この時期を重点に防除する。



老齡幼虫



成虫



■ キャベツ コナガ の防除体系 例

育苗期に

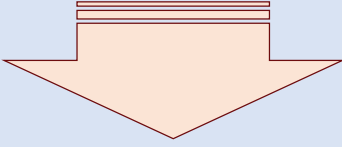
定植時に

1B ジェイエス^{殺虫剤} 粒剤
〔3~6kg/10a (1~2g/株)
定植時 / 植穴処理/1回〕

28 **ベリマークSC**
〔400倍 / セル成型育苗トレイ1箱または
ペーパーポット1冊 (約30×60cm、使用
土壌 約1.5~4L) あたり0.5L
/ 育苗期後半~定植当日 / 灌注〕

OR

28 **プリロツソ** 殺剤 **オメガ**
〔1g/株 育苗期後半~定植時/株元散布/1回〕



4A
28 **ミネクトデュオ** 粒剤
〔プリロツソ+アクタラ〕
〔1g/株定植時 / 株元散布 / 1回〕

発生が認められたら

30 **グレースィア**^{乳剤}
〔2000~3000倍 / 収穫7日前まで / 2回以内〕
プロフレアSC 〔2000~4000倍
/ 収穫前日まで / 3回以内〕

1B **ジェイエス**^{殺虫剤} 水溶剤
〔1000~1500倍
/ 収穫30日前まで / 1回以内〕

4A **ダントツ** 水溶剤
〔2000倍 / 収穫3日前まで / 2回以内〕
モスピラン 顆粒水溶剤
〔1000~2000倍
/ 収穫7日前まで / 5回以内〕

UN **フレオフロアブル**
〔1000倍 / 収穫7日前まで / 2回以内〕

ローテーション散布

34 **ファインセーブ**^{フロアブル}
〔1000~2000倍
/ 収穫3日前まで / 2回以内〕

5 **ティアナsc**
〔2500~5000倍
/ 収穫前日まで / 2回以内〕

28 **ベネビアOD**
〔2000~4000倍 / 収穫前日まで / 3回以内〕
ヨーバル フロアブル
〔2500~5000倍 / 収穫前日まで / 3回以内〕

6 **アズキ** 乳剤 〔1000~2000倍
/ 収穫3日前まで / 3回以内〕
アフーム 乳剤 〔1000~2000倍
/ 収穫前日まで / 3回以内〕

21A
F: 39(C1) **ハチハチ** 乳剤
〔1000~2000倍
/ 収穫14日前まで / 2回以内〕

23 **モベントX** フロアブル
〔2000倍 / 収穫7日前まで / 3回以内〕

14 **パダンSG** 水溶剤
〔1500倍 / 収穫14日前まで / 4回以内〕

13 **コテツ** フロアブル
〔2000倍
/ 収穫前日まで / 2回以内〕

3. アブラナ科野菜 アブラムシ類

予報内容 発生量 : 平年並 (前年比 多い)

発生生態及び防除上注意すべき事項

- (1) 通常、無翅虫で集団加害するが、密度が高まると有翅虫が現れて分散し、発生が拡大する。
- (2) 高温、乾燥が続くと発生が多くなる。
- (3) 野菜等をは種又は定植する際には、シルバーフィルムやムシコン等のマルチを被覆するか、シルバーテープを張り、有翅虫の飛来を防止する。また、早期発見によりアブラムシ類の防除に努める。

アブラムシ類

アブラナ科野菜には主に3種のアブラムシが寄生するが、ダイコン、ハクサイにはニセダイコンアブラムシとモモアカアブラムシ、キャベツ、ナタネにはダイコンアブラムシが多い。吸汁による直接害の他、各種ウイルス病を媒介する。

モモアカアブラムシ

特 徴 : 移住型のアブラムシで夏寄主はアブラナ科野菜の他ナス、トマト、ピーマン、タバコ、ハウレンソウなど多くの作物が知られている。冬寄主はモモ、スモモで卵態で越冬する。しかし、関東以南の暖地では、野外のアブラナ科野菜、雑草に胎生で越冬しているのも多く見られる。発生は4月上中旬から、5月中下旬がピークとなり、6月下旬には少なくなる。9月中下旬から11月上旬にかけ再び多くなるが、春世代に比べ一般に少ない。胎生雌には淡緑色～淡黄色、および淡赤色の2系統があり、冬期には淡赤色が多い。

ダイコンアブラムシ

特 徴 : アブラナ科作物のみに寄生し、特にキャベツ、カリフラワー、コモチカンラン、ナタネに多い。成・幼虫とも白色状の分泌物を体表に付着し、寄生する場合コロニーを作る。本種は低温に適しているようで、4月中～下旬から多くなり、梅雨期までに急激に増殖するが、夏・秋には少ない。

ニセダイコンアブラムシ

特 徴 : ダイコン、ハクサイに多く、体は黄緑色でうすい白粉を体背におびている。発生は夏播・秋播に多く、秋期に高温がつづく就多発する。



モモアカアブラムシ



ニセダイコンアブラムシ



■ キャベツ アブラムシ類 の防除体系 例

育苗期に

定植時に

1B

ジエース 粒剤

[3~6kg/10a (1~2g/株)
定植時 / 植穴処理 / 1回]

28

ベシマープSC

[400倍 / セル成型育苗トレイ1箱または
ペーパーポット1冊 (約30×60cm、使用
土壌 約1.5~4L) あたり0.5L
/ 育苗期後半~定植当日 / 灌注]

OR

28

フリロツソ 粒剤 **オメガ**

[2g/株 育苗期後半~定植時/株元散布 / 1回]

4A

28

ミネクトデュオ

[フリロツソ+アクトラ] 粒剤

[1g/株 定植時 / 株元散布 / 1回]

発生が認められたら

29

ウララDF

[2000~3000倍
/ 収穫前日まで / 2回以内]

4A

ダントツ 水溶剤

[2000~4000倍
/ 収穫3日前まで / 2回以内]

21A
F:39(C1)

ハチハチ 乳剤

[1000~2000倍
/ 収穫14日前まで / 2回以内]

モスピラン
顆粒水溶剤

[2000~4000倍
/ 収穫7日前まで / 5回以内]

スタークル
顆粒水溶剤

[2000~3000倍
/ 収穫7日前まで / 2回以内]

ローテーション散布

28

ベネビアOD

[2000倍 / 収穫前日まで / 3回以内]

ヨーバル フロアブル

[2500~5000倍
/ 収穫前日まで / 3回以内]

4C

トランスフォーム フロアブル

[2000倍 / 収穫前日まで / 3回以内]

9B

コルト 顆粒水溶剤

[3000~4000倍
/ 収穫前日まで / 3回以内]

23

モベントX フロアブル

[2000~4000倍 / 収穫7日前まで / 3回以内]

14

パタンSG 水溶剤

[1500倍 / 収穫14日前まで / 4回以内]

■ キャベツ コナガ の防除体系 例

育苗期に

定植時に

28 **ベシマーク^{SC}**

[400倍 / セル成型育苗トレイ1箱または
ペーパーポット1冊 (約30×60cm、使用
土壌 約1.5~4L) あたり0.5L
/ 育苗期後半~定植当日 / 灌注]

28 **プリロツン^{粒剤} オメガ**

[1g/株 育苗期後半~定植時/株元散布 / 1回]

1B **ジエイエス^{殺虫剤} 粒剤**

[3~6kg/10a (1~2g/株)
定植時 / 植穴処理 / 1回]

発生が認められたら

30 **グレイシア[®] 乳剤**

[2000~3000倍 / 収穫7日前まで / 2回以内]

プロフレア^{SC} [2000~4000倍
/ 収穫前日まで / 3回以内]

1B **ジエイエス^{殺虫剤} 水溶剤**

[1000~1500倍
/ 収穫30日前まで / 1回以内]

4A **ダントツ^{水溶剤}**

[2000倍 / 収穫3日前まで / 2回以内]

モスピラン[®] 顆粒水溶剤

[1000~2000倍
/ 収穫7日前まで / 5回以内]

UN **フレオフロアブル**

[1000倍 / 収穫7日前まで / 2回以内]

ローテーション散布

34 **ファインセーブ^{フロアブル}**

[1000~2000倍
/ 収穫3日前まで / 2回以内]

21A **ハチハチ^{乳剤}**

[1000~2000倍
/ 収穫14日前まで / 2回以内]

5 **デアナ^{SC}**

[2500~5000倍
/ 収穫前日まで / 2回以内]

28 **ベネビア^{OD}**

[2000~4000倍 / 収穫前日まで / 3回以内]

ヨーバル^{フロアブル}

[2500~5000倍 / 収穫前日まで / 3回以内]

23 **モベント[▽] フロアブル**

[2000倍 / 収穫7日前まで / 3回以内]

6 **アキ^{乳剤}**

[1000~2000倍
/ 収穫3日前まで / 3回以内]

アフーム^{乳剤}

[1000~2000倍
/ 収穫前日まで / 3回以内]

13 **コデツ^{フロアブル}**

[2000倍
/ 収穫前日まで / 2回以内]

14 **パダン^{SG} 水溶剤**

[1500倍 / 収穫14日前まで / 4回以内]

■ キャベツ アブラムシ類 の防除体系 例

育苗期に

定植時に

28 **ベシマーク^{SC}**

[400倍 / セル成型育苗トレイ1箱または
ペーパーポット1冊 (約30×60cm、使用
土壌 約1.5~4L) あたり0.5L
/ 育苗期後半~定植当日 / 灌注]

28 **プリロツン^{粒剤} オメガ**

[2g/株 育苗期後半~定植時/株元散布 / 1回]

1B **ジエイエス^{殺虫剤} 粒剤**

[3~6kg/10a (1~2g/株)
定植時 / 植穴処理 / 1回]

発生が認められたら

21A **ハチハチ^{乳剤}**

[1000~2000倍
/ 収穫14日前まで / 2回以内]

29 **ウララ^{DF}**

[2000~3000倍
/ 収穫前日まで / 2回以内]

ローテーション散布

4A **ダントツ^{水溶剤}** [2000~4000倍
/ 収穫3日前まで / 2回以内]

モスピラン[®] 顆粒水溶剤 [2000~4000倍
/ 収穫7日前まで / 5回以内]

スタークル[®] 顆粒水溶剤 [2000~3000倍
/ 収穫7日前まで / 2回以内]

28 **ベネビア^{OD}**

[2000倍 / 収穫前日まで / 3回以内]

ヨーバル^{フロアブル}

[2500~5000倍
/ 収穫前日まで / 3回以内]

23 **モベント[△] フロアブル**

[2000~4000倍 / 収穫7日前まで / 3回以内]

4C **トランスフォーム^{フロアブル}**

[2000倍 / 収穫前日まで / 3回以内]

14 **パダン^{SG} 水溶剤**

[1500倍 / 収穫14日前まで / 4回以内]

9B **コルト^{顆粒水溶剤}**

[3000~4000倍
/ 収穫前日まで / 3回以内]